

2014年度 科学技術社会論学会総会・年次学術大会プログラム

11月15日(土)

【第1セッション】 10:00 - 12:00

A1 災害と事故

座長：

城下 英行(関西大学)

「分かり合うための防災共育の理論と実践」

田中 隆文(名古屋大学)・北山 祐希(名古屋大学)

「注目する要因だけの科学」から「全てを背負う科学」への転換をどう図るか？

—自然災害に関する知見の社会への発信を例として—

島添 順子(ジェトロ・アジア経済研究所)

「不確実性、組織制約と組織事故—日常環境下の集団選択」

B1 STSと政策

座長：

加納 圭(滋賀大学, 京都大学, JST RISTEX)

「再生医療」と「夢ビジョン 2020」を対象としたパブリックエンゲージメント」

田中 丹史(早稲田大学)

「医療政策における市民参加と正当性：がん対策推進基本計画の策定過程の分析」

小林 俊哉(九州大学)

「大学院教育における「STS ステートメント」の作成と発表の試み—九州大学における教育実践」

関谷 翔(東京大学大学院)

「審議会における科学的助言者の役割および責任——議事録分析を通じて」

C1【OS】STSをつくる社会—日本における科学技術社会論の形成と立論構造の変化

オーガナイザー：木原 英逸（国士舘大学）

夏目 賢一（金沢工業大学）

「東大先端研の設立理念における大学教員の主体性—東大紛争にともなう工学部改革論との相違とその歴史的要因—」

木原 英逸（国士舘大学）

「シンクタンク化のなかの STS—日本の STS は何に应运えてきたのか」

原 塑（東北大学大学院）

「科学者の責任論の STS 的転換」

五島 綾子（元静岡県立大学）

「Science と Technology のボーダレス化に向かう STS—ナノテクノロジーを事例にして—」

D1【OS】気候変動リスク管理における科学的合理性と社会的合理性の相互作用

オーガナイザー：宗像 慎太郎（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）

草深 美奈子（東京大学）・藤垣 裕子（東京大学）

「地球規模の気候変動リスク管理における社会的合理性についての理論的検討 3：市民が専門家に任せたいと考える課題における社会的合理性とは」

宗像 慎太郎（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）・森本 高司（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）・高橋 溪（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）

「気候変動に係るトレードオフに関する意思決定パターンの研究」

山内 保典（大阪大学）・八木 絵香（大阪大学）

「気候変動リスク管理における「市民」の役割」

【昼休み】 12:00 - 13:30

【第2セッション】 13:30 - 15:30

A2【OS】「放射線安全神話」をめぐる歴史と現在—防護は誰のため、何のためか—

オーガナイザー：林 衛（富山大学）

林 衛（富山大学）

「【問題提起】被曝による人権侵害問題を通して STS の到達点と変容を検証しよう」

瀬川 嘉之（高木学校）

「犠牲を強いられているのは誰か—「東電原発事故に伴う住民の健康管理のあり方に関する専門家会議」を分析する」

山内 知也（神戸大学大学院海事科学研究科）

「シーベルトで被曝影響は測れるか—要素還元主義の間違い」

藤岡 毅（同志社大学（嘱託講師））

「中川保雄の被曝史研究から引き継ぐべきもの—科学的とは何か」

柿原 泰（東京海洋大学）

「放射線リスクコミュニケーションのもたらすもの—放射線リスクをめぐる科学技術論の変容」

B2【OS】「科学と社会」教育の現在

オーガナイザー：標葉 隆馬（総合研究大学院大学）

コメンテーター：田原 敬一郎（公益財団法人未来工学研究所）

中尾 央（総合研究大学院大学）・標葉 隆馬（総合研究大学院大学）・飯田 香穂里（総合研究大学院大学）・菊池 好行（総合研究大学院大学）・伊藤 憲二（総合研究大学院大学）・平田 光司（総合研究大学院大学）・長谷川 眞理子（総合研究大学院大学）

「総研大における「科学と社会」教育プログラムの取り組み：海外事例との比較を通じて」

定松 淳（東京大学教養学部附属 教養教育高度化機構）

「大学院副専攻における「科学と社会」教育—東京大学インタープリター養成プログラムでの経験から—」

川本 思心（北海道大学）

「北海道大学 CoSTEP の活動から見える科学技術コミュニケーション教育の課題」

中村 征樹（大阪大学）

「大阪大学における「科学と社会」教育：学部教育での実践事例」

C2【OS】役に立つ科学技術、役に立つ STS

オーガナイザー：網盛 一郎（東京大学大学院 情報学環）

ディスカッサント：佐倉 統（東京大学大学院）

網盛 一郎（東京大学大学院 情報学環）

「役に立つ科学技術、役に立つ STS」

菅井 美賢（産業技術総合研究所 イノベーション推進本部）

「科学技術による社会的価値創造を目指す産学連携」

藤井 隆満（技術士事務所）

「企業における研究開発を役に立つにするために」

中村 景子（株式会社スペースタイム）

「科学と社会をつなげるサイエンスコミュニケーションをデザインする」

D2【OS】知、関係性、消費：食と農の放射能汚染

オーガナイザー：山口 富子（国際基督教大学）

ディスカッサント：齊藤 弘久（Singapore Management University）

柄本 三代子（東京国際大学）

「食の「安全と安心」をめぐる人びとの知」

山口 富子（国際基督教大学）

「汚染をめぐるコミュニケーション：食の風評問題の検証を通して」

Joo-Young Jung（International Christian University）

「Change in food consumption behaviors after the Fukushima nuclear accident:A survey result of residents in Fukushima and Tokyo」

【総会／柿内賢信記念賞研究助成金授与式】 15:50 - 16:50

場所：法経講義棟 5 番教室

【中山茂追悼セッション】 17:00 - 18:30

T1【OS】中山茂氏の現代日本の科学・技術・社会研究の諸相—中山茂追悼セッション—

オーガナイザー：綾部 広則（早稲田大学）

後藤 邦夫（NPO 法人 学術研究ネット）

「中山茂における科学史研究の方法論的特質」

塚原 修一（関西国際大学）

「中山茂の高等教育論をめぐって」

吉岡 斉（九州大学大学院）

「科学技術立国論と中山茂」

川野 祐二（公立大学法人 下関市立大学）

「閉ざされた円環とサービス科学—中山茂の市民セクターへの期待」

【懇親会】 18:45 - 20:45

11月16日(日)

【第1セッション】 9:00 - 10:30

A3 リスク論

座長:

安 順花(産業技術総合研究所)

「ナノテクノロジーのリスクに関する日本メディアの分析」

斉藤 健(北海道大学)

「市民は活断層のリスクをどう捉えているのか～科学技術コミュニケーションの観点から～」

辛島 恵美子(関西大学)

「安全・危険概念分析から見える現代日本社会の高度科学技術制御の課題」

B3 ジェンダー

座長:

黒田 光太郎(九州産業大学)

「男女共同参画活動における黒田チカのあつかい」

横山 美和(お茶の水女子大学大学院)・小川 眞里子(三重大学)・河野 銀子(山形大学)・財部 香枝(中部大学)

「東アジアにおける女性研究者に関する研究—日本・韓国・台湾の比較に向けて—その(2)」

C3 環境への視座

座長:

北山 祐希(名古屋大学)・田中 隆文(名古屋大学)

「NPO 法人における里山に期待する要素と地域性の認識」

堀尾 正鞠(龍谷大学)

「「共-進化」の時代に求められる「科学技術コミュニケーション」」

D3 ビッグサイエンス

座長：

足立 枝実子(北陸先端科学技術大学院大学)・伊藤 泰信(北陸先端科学技術大学院大学)

「大型加速器を用いた大規模物理学実験グループにおける競争と協働」

平瀬 貴志(東京大学)

「日本の宇宙政策の変化と固体燃料ロケット」

石崎 恵子(宇宙航空研究開発機構 (JAXA))

「科学技術をめぐる“両義性”概念の検討——宇宙開発を中心に」

【第2セッション】 10:40 - 12:10

A4 原子力の諸問題

座長：

寿楽 浩太(東京電機大学)

「日本の原子力政策に見る構造災の再生産構造—高レベル放射性廃棄物処分、廃炉・汚染水対策、安全規制—」

土屋 智子(東京大学)・松浦 正浩(東京大学)・谷口 武俊(東京大学)

「専門家が真に語り合う場は可能か

～原子力施設の地震・津波リスクに関する専門家間の議論の場の試み～」

瀬藤 一起(東京大学地震研究所)

「大飯原発運転差止判決における科学の問題」

B4 生命と研究の倫理

座長：

植木 哲也(苫小牧駒澤大学)

「研究用アイヌ遺骨は返還されるのか—政府ガイドラインの問題点」

渡部 麻衣子(東京大学)

「ダウン症はいかにして出生前検査の対象となってきたか：ヒトの区別とその帰結」

林 真理(工学院大学)

「科学技術論の現行の知見に基づく「デュアル・ユース」論の検討：合成生物学を事例として」

C4 コミュニケーションの実践

座長：

有賀 雅奈(北陸先端科学技術大学院大学・日本学術振興会)

「科学技術コミュニケーションにける学生の「前提の省察」

立川 雅司(茨城大学)・松尾 真紀子(東京大学)・三上 直之(北海道大学)・高橋 祐一郎(農林水産政策研究所)・山口 富子(国際基督教大学)

「新しい育種技術」に関する模擬的ステークホルダー討議－課題の背景と位置づけ－

三上 直之(北海道大学)・高橋 祐一郎(農林水産政策研究所)・立川 雅司(茨城大学)・山口 富子(国際基督教大学)

「新しい育種技術」に関する模擬的ステークホルダー討議－ロールプレイを用いた試行から－

D4 イノベーションと知

座長：

鈴木 羽留香(立命館大学)

「不採択課題の知財保護と保管期間に関する異能 *vation* 施策事例を参考に一次世代パラダイムに備える失敗過程や不採択課題の移行後における将来的再評価のためのイノベーション資源としてのデータベース遺産の可能性と課題－

櫻井 隆充(慶應義塾大学)

「低線量被曝認識における〈専門知〉と〈社会知〉の理解に関わる認識論的問題－〈前提知〉に関する知識社会学的考察－

柴田 清(千葉工業大学)

「学術雑誌における正当性確保手段として査読システムの検討」

W4 【OS】 Nuclear Legacies: Radiation Risk in Historical and Anthropological Perspectives

オーガナイザー：Kenji Ito (The Graduate University for Advanced Studies)
Shi-Lin Loh (Harvard University)

「Nagai Takashi and Radiology in Pre-war Japan」

Susan Lindee (University of Pennsylvania)

「An epidemiology without end: The Radiation Effects Research Foundation and scientific planning for unknown future risk」

Tomoyo Tamayama (National Museum of Ethnology, Osaka Japan)

「The Legacies and Redevelopment Plans of Uranium Mining in the Grants Mineral Belt, New Mexico」

【昼休み】 12:10 - 13:30

【第3セッション】 13:30 - 15:00

A5 リスクコミュニケーション

座長：

馬場 健司(法政大学)

「インターネット討論実験における専門知の提供によるステークホルダーの態度変容分析ー地熱発電と温泉利用の資源間トレードオフをめぐるケーススタディー」

山野 直樹(福井大学)

「市民参画型原子力リスクガバナンスモデルの提案」

早岡 英介(北海道大学)・川本 思心(北海道大学)・郡 伸子(北海道大学)

「リスクコミュニケーションのための情報提供資料をどう作るか～福島県産米をめぐる反応を例に～」

B5 科学教育

座長：

伊田 拓浪(東京大学)

「市民社会の構成員に向けた STS 教育方法論に関する研究 -SSH を例にとって-」

吉岡 有文(立教大学)

「学校教育における提示メディアと教授観の変遷 「デジタル教科書」導入の科学技術社会論的検討」

平井 俊男(大阪府立長尾高等学校)

「「ふつう」の高校の理科課題研究ー科学研究と意思決定の訓練場ー」

C5 【OS】 環境と技術者の倫理

オーガナイザー：齊藤 了文(関西大学)

齊藤 了文(関西大学)

「人工物環境と技術者」

藤木 篤(久留米工業高等専門学校)

「技術者に求められる環境配慮義務：工学系学協会の倫理綱領および工学倫理の教科書に関する調査から」

打田 憲生(日本技術士会・ETの会)

「技術による環境への影響と責任の限界」

D5 STS の理論

座長：

東出 拓己(東京大学公共政策大学院)・松浦 正浩(東京大学公共政策大学院)

「中西部太平洋まぐろ類委員会における管理基準値策定過程の分析—水産資源管理における科学の役割—」

谷内 悠(東京大学)

「創造論運動を巡る科学／疑似科学／宗教—ハイパーリアルな宗教としての The Church of the Flying Spaghetti Monster を通じて—」

杉原 桂太(南山大学)

「アクターネットワーク理論と社会ネットワーク分析の交点について考える—質的科学的計量学への中心性分析とグラフ描写法の適用の試み—」

W5【OS】人工知能が浸透する社会を考えるワークショップ

オーガナイザー：江間 有沙 (京都大学)

江間 有沙 (京都大学)

「人工知能技術と STS」

服部 宏充 (立命館大学)

「人工知能学会特集号の背景と問題意識」

秋谷 直矩 (京都大学)

「情報学(者)と社会科学(者)のかかわり方のこれまでとこれから」

【第4セッション】 15:10 - 16:40

A6 エネルギー論

座長：

森田 満希子(九州大学)

「日本の新エネルギー開発の社会的研究 ——水素エネルギーを中心として」

井口 春和(自然科学研究機構・核融合科学研究所)

「研究機関アーカイブズの整備と STS から見た意義—核融合アーカイブズの事例—」

B6 技術と文化

座長：

金子 毅(聖学院大学)

「「安全」に見る日本的服従の原理—技術文化論的アプローチ」

中尾 悠里(東京大学大学院)

「情報技術の発展が日本の著作物ライセンスに与えた影響の分析」

中島 匠(千葉工業大学大学院)

「アニメーション作品が自動車自動運転の未来像に与える影響」

C6【OS】日本の科学技術活動への疑問

オーガナイザー：比屋根 均(ラーテン技術士事務所/ETの会)

入江 信一郎(京都工芸繊維大学)

「現実を構成するための隠蔽の方策：「イノベーション」という用語の用法を事例に」

比屋根 均(ラーテン技術士事務所/ETの会)

「デファクト型からデジュリ型への転換について考える」

宮林 正恭(東京都市大学客員教授)

「科学と技術の差異に対する理解のバイアスがもたらしているわが国の科学技術活動への影響」

D6 専門家とコミュニケーション

座長：

吉田 悦子(東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程)

「科学者・専門家と市民との対話におけるコミュニケーションの課題に関する研究」

萩原 優騎(公益財団法人生協総合研究所)

「社会のレジリエンスと科学技術コミュニケーション」

林 衛(富山大学人間発達科学部)

「大川小事故検証委員会はどこで道をまちがえたのか—科学の誤用による人権侵害」

W6【OS】マン・マシン・インタフェースについて考える現場から——「人工知能学会表紙問題」をめぐって

オーガナイザー：高橋 さきの（御茶ノ水女子大学）

コメンテーター：林真理（工学院大学）

高橋 さきの（御茶ノ水女子大学）

「マン・マシン・インタフェースについて考える現場から——「人工知能学会表紙問題」をめぐって」

大澤 博隆（筑波大学）

「知能が作る社会・社会が作る知能」

吉野 太郎（関西学院大学）

「セクシュアル・ハラスメントおよび女性研究者支援の観点から考える——「人工知能学会表紙問題」をめぐって——」